

豊かなみのにご奉仕する。

KURAGI クラギ株式会社



本社隣接の農業屋松阪インター店

企業概要



代表取締役社長
竹内 秀樹氏

所在地 三重県松阪市川井町花田539
TEL:0598-26-1111 FAX:0598-26-1113

創業 1603年(慶長8年)9月

設立 1963年(昭和38年)12月

資本金 5,000万円

従業員数 340人(2021年9月現在)

事業内容 農業関連品の販売

URL <http://www.nogyoya.jp/>



農業屋1号店

日本初の種苗と 農業用品の専門店

「農業マーケットは、もともともっと面白くなる」「農業マーケットは、もともともっと成長する」をモットーに、株式会社クラギは、「農」に関わる新たなビジネスモデルを展開し進化を続ける。

クラギ株式会社は、松阪市に本社を置き、種苗と農業用品の専門店「農業屋」を、三重県を中

農家には農業経営のサポートを通じて、「農」に関わるすべての人とのつながりを目指している。



倉田儀八商店当時の案内

心に東海や関西で51店舗展開している。農業屋は、種・苗から肥料、資材、農業機械など、農家のあらゆるニーズを満たすことを掲げる種苗と農業用品の専門店だ。家庭菜園を楽しむ個人のお客様には店舗を通じて、プロの

今から約400年前の1603年(慶長8年)、倉田儀八氏が松坂(松阪)新町にて種苗問屋の「倉田儀八商店」を創業した。明治・大正・昭和という時代を農業とともに歩み、1963年に現社長の父である竹内千宏氏が「クラギ種苗株式会社」として法人を設立した。当時は、卸売りがメインの業態であった。ところが、1970年代の二度の石油危機が引き金となった不況の影響で消費が冷え込み、卸先の販売が低迷。そのおろを受け同社の売上も激減した。そこで時代の変化を先読みし、エンドユーザーである農家に直接販売する小売へと業態転換に踏み切ることに活路を見出した。当時は、種苗は種苗屋でし



か購入できず、農業用資材は資材屋でしか購入できないというのが一般的であった。また、兼業農家が大半を占めながらも、農業専門店は土日が休業日であり、農家にとって不便な状況であった。そこで、同社は1973年にクラギ株式会社へ名称を変え、1982年に日本初の農業用品専門店である『農業屋』1号店をオープン。「農」に関する商品が「か所」で全て揃えられることをコンセプトに据えた。

そして、農業屋が奈良県に初出店した1997年10月に、36歳の若さで現社長の竹内秀樹氏

が社長に就任。新進気鋭の若手経営者が、今のクラギを作り上げることとなる。

高い専門性と人づくり

同社の強みは、なんといっても高い専門性と地域密着型サービスだ。400年以上続く種屋という歴史は、日本各地とのネットワークを作り上げ、あらゆる品種の種を取り揃えることを可能とした。また、松阪市内に自社農場を持ち、400種以上におよぶ野菜と花の苗を生産している。お客様とのコミュニケーションを密にすることで具体的なニーズを聞き取り、ニーズに合った多品種で良質な育苗を実践している。

そして、高い専門性を発揮するには、社員の豊富な知識が最も重要である。取扱商品についてはもちろん、農業そのものについての知識や農業機械の構造理解と修理技術の習得も求められる。社内研修の随時開催と社外研修への派遣を行い、常に知識や情報の更新を絶やさない。農業技術アドバイザーの育成や農産



自社農園



獣害ネットの設置



防獣バスターズ号

物検査員資格などの取得を積極的に推奨している。コロナ禍に関わらず、社員自らが学びたいときに学ぶことができるようタブレット端末を使用した研修体制を構築し、研修以外にも全国の社員同士のコミュニケーションツールとしての活用も考えている。「社員には自ら学ぶ姿勢を大切にしてほしい。やらされていると感じると面白くない。自ら進んでやるからこそ、学びは知識となり蓄えられる」と竹内社長は熱を込める。

地域密着が生んだ新サービス

同社の強みである、地域密着型の経営によって、お客様とのコミュニケーションから生まれた事

SDGsとこれからの店舗経営

今や世界の共通言語となったSDGsであるが、同社ではSDGsが採択される前の2006年から、独自に「新農業宣言」を提唱し、全社員共通の想いとして行動していた。「豊かなみのに、ご奉仕する」を理念とし、環境保全や食や農の安心安全、健康なくらしづくりに取り組んでいた。その新・農業宣言をSDGsへ落とし込み、2021年10月にSDG宣言として新たにスタートした。新・農業宣言との両輪で取り組む方針だ。

また、今後の経営について、竹内社長は「単純に商品を販売するのではなく、さらにサービスに厚みを持たせたい。『畑の雑草を刈ってほしい』『不要な木を二本切ってほしい』という、ちょっとした「農」に関する困りごとを、農業屋が窓口になり解消できれば、より一層皆さんの生活に密着した農業屋になれる。そうなる」と、また何かあれば農業屋に相談しようと思っただけ、長き

笑顔を大事にした接客



作る人と食べる人をつなぐ

他にも農産物流通事業として、農家の販路拡大支援を積極的に実施している。地産地消の見える農家の先駆けとして、2006年に「農家の産直市場のみり」久居店を開店。「農業屋」が農産物を作る人と食べる人のつなぎ役となり、消費者の生の声を農家に届けることで、より消費者のニーズを取り入れた野菜の栽培につなげている。

新・農業宣言

New Agricultural Creation's KURAGI

私たち農業屋は

「豊かなみのにご奉仕する」を理念に

1. 農業生産の向上に地域とともに取り組みます
2. 子供たちのために、食と農の安心・安全に取り組みます
3. 美しい自然を守る農業に取り組みます
4. 良質な商品やサービスの提供に取り組みます
5. 楽しい農業と健康なくらしづくりに取り組みます

そして、お客様の満足度を求めて全力を込めます

2006年10月1日

クラギ株式会社

代表取締役社長 竹内 秀樹

SDGs宣言

「クラギは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援し、事業活動を通じてSDGs達成に向け、取り組むことを宣言します。」

企業活動を通じて地球環境に貢献する

「環境経営は、地球環境の課題解決の重要な要素である」

・環境に配慮した商品の利用促進に取り組み。

・SDGに則した自社のエネルギー使用量の削減に取り組み。

・種・形の廃棄を通じて資源の循環に貢献する。

働く人と地域の発展に貢献する

「地域とのつながりは、持続可能な企業経営の重要な要素である」

・従業員が心身ともに健康であり続けられる職場づくりに取り組む。

・多様な人材が、十分に活躍できる職場づくりに取り組む。

・地域貢献活動に積極的に取り組む。

企業経営を通じて生命産業である農業へ貢献する

「農業への貢献は持続可能な地域社会への重要な要素である」

・安心安全な農産物の供給に貢献する。

・社会課題を解決するための商品・サービスの開発、展開に取り組む。

・農業分野における地域課題の解決による企業発展を目指す。

2021年10月1日

クラギ株式会社

代表取締役社長 竹内 秀樹



百五銀行 松阪中央支店長
平田 大介

支店より一言

「農業屋」という馴染みやすいネーミングで地域に根差し、個人から専業農家、種苗から農業資材まで、高いスキルと豊富な品揃えで「農業」という生命活動の根幹を支え続けているクラギさま。社員の方々は、人々の「食」を支えているという誇りと責任感を持って仕事をされているのが凄く伝わってきます。これからも作る喜びをサポートして、人々の暮らしを豊かにしてください！

にわたりつながりを持ち続けることができる」と語る。農業は、携わる人々に作る喜びを与えてくれる。作る喜びは、生きがいとなる。「農業屋」を通じて、生きがいを創出できるクラギ株式会社は、これからも農業に新しい価値を生み出してくれるだろう。

文〓会員事業部 奥田 千夏